

平成23年6月6日

## 繊維製品に関する放射線量のサンプリング調査結果について

～国内地域間及び国外との比較～

福島第一原子力発電所の事故を受け、我が国繊維製品における放射能の影響を把握するため、国内及び国外の各地域で生産された繊維製品の放射線量についてサンプリング調査を行いました。

調査の結果、いずれの地域のサンプルからもバックグラウンド値を大きく超える放射線量は検出されず、また、生産地間（国内の地域間及び国内と国外間）において放射線量の有意な差は認められませんでした。

### 1. 調査目的

福島第一原子力発電所の事故を受け、我が国繊維製品における放射能の影響を把握するため、国内外で生産された繊維製品の放射線量についてサンプリング調査を行い、繊維産業界及び消費者へ正確な情報を提供すること。

### 2. 調査方法

#### (1) 測定方法

調査対象地域で生産された繊維製品について、端窓型 GM サーベイメータを用いて放射線量を測定し、放射能面密度 (Bq/cm<sup>2</sup>) (単位面積当たりの放射能) を求めました。

#### (2) 測定器

GM サーベイメータ TGS-146 (アロカ社製)

### 3. 調査実施期間

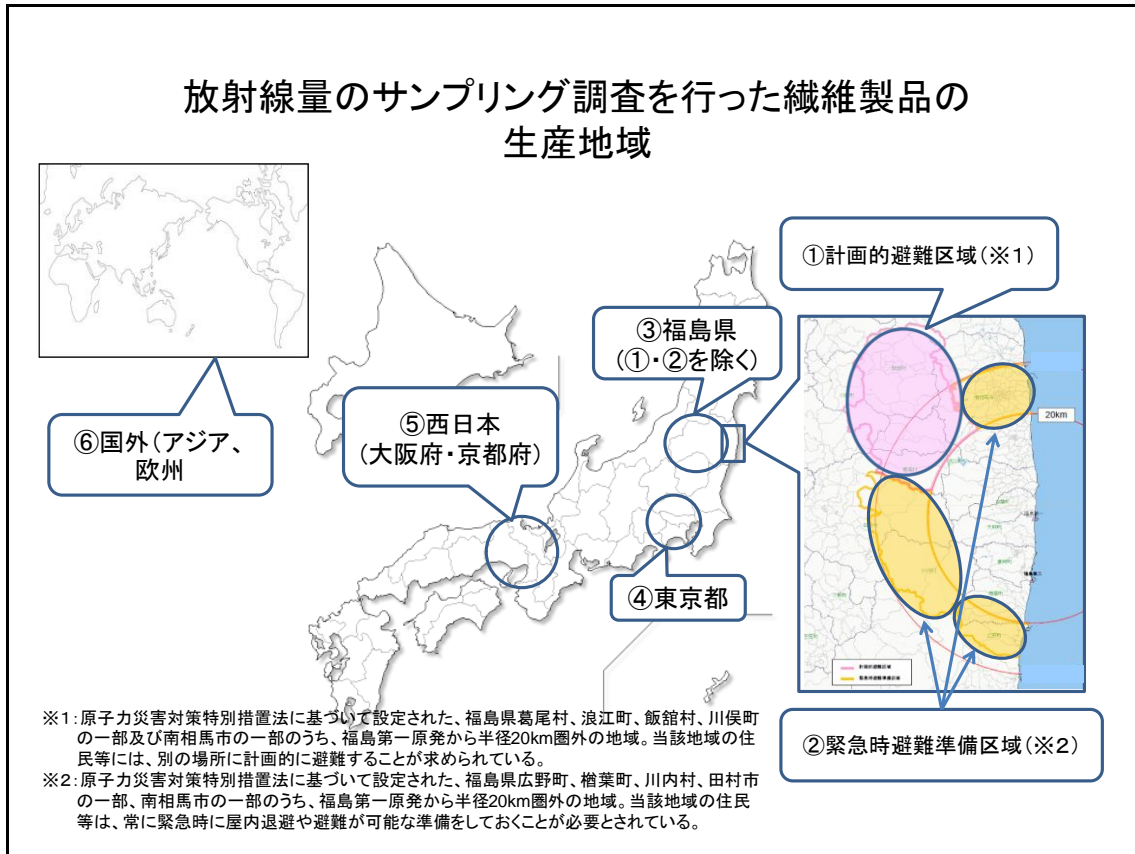
平成23年4月～5月

### 4. 調査対象物

繊維製品 (ニット製品、布帛製縫製製品、絹織物及び同製品)

## 5. 調査対象物の生産地域（下図参照）

計画的避難区域、緊急時避難準備区域、福島県内（警戒区域、計画的避難区域及び緊急時避難準備区域を除く。）、東京都、西日本（大阪府、京都府）、国外（アジア、欧州）の6地域。



## 6. 調査実施場所

一般財団法人カケンテストセンター（埼玉県川口市）

## 7. 調査結果

5. で示した生産地域毎に調査対象である繊維製品をサンプリングし、放射線量の測定を行いました。いずれの地域のサンプルからもバックグラウンド値（6. 調査実施場所での環境放射線量）を大きく超える放射線量は検出されませんでした。また、繊維製品の生産地の違いによる放射線量の有意な差も認められませんでした。

調査対象物毎の結果は以下のとおりです。なお、以下の放射能面密度の数値は、測定値からバックグラウンド値を差し引いたものです。

### (1) ニット製品（化学繊維）

放射能面密度の測定値（平均値）は、最小 0.01 Bq/cm<sup>2</sup>～最大 0.02 Bq/cm<sup>2</sup>であり、バックグラウンド値を超えて放射線量が検出されるサンプルはありませんでした。

### (2) ニット製品（天然繊維）

放射能面密度の測定値（平均値）は、最小 0.00 Bq/cm<sup>2</sup>～最大 0.14 Bq/cm<sup>2</sup>であり、バックグラウンド値を超えて放射線量が検出されるサンプルはありませんでした。

### (3) 布帛製縫製製品（化学繊維）

放射能面密度の測定値（平均値）は、最小-0.02 Bq/cm<sup>2</sup>～最大 0.02 Bq/cm<sup>2</sup>であり、バックグラウンド値を超えて放射線量が検出されるサンプルはありませんでした。

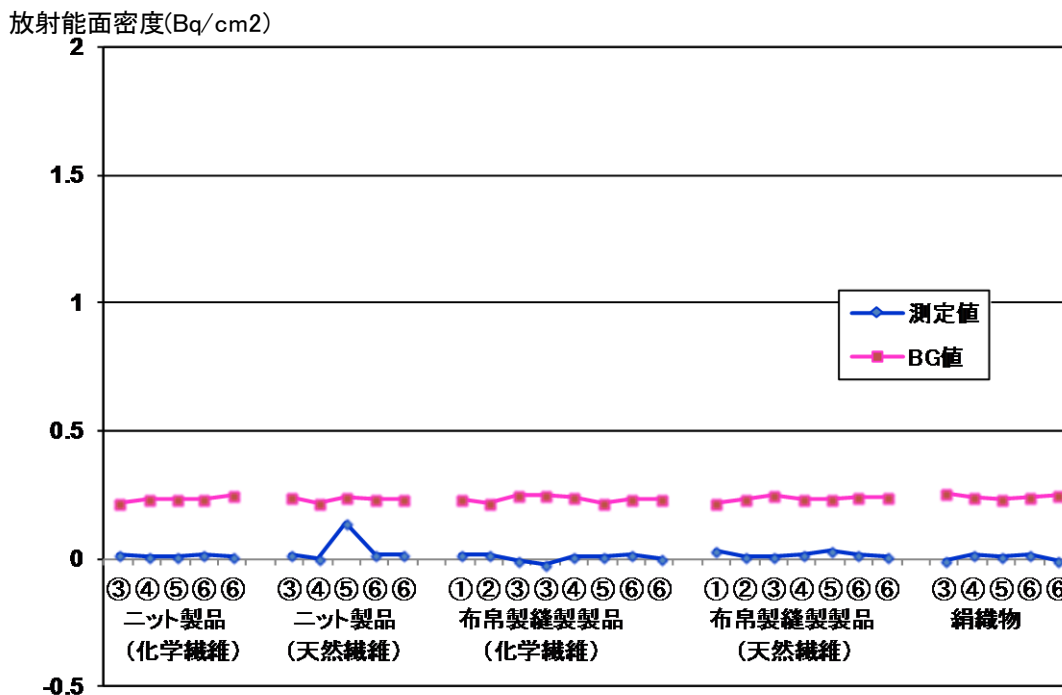
### (4) 布帛製縫製製品（天然繊維）

放射能面密度の測定値（平均値）は、最小 0.01 Bq/cm<sup>2</sup>～最大 0.03 Bq/cm<sup>2</sup>であり、バックグラウンド値を超えて放射線量が検出されるサンプルはありませんでした。

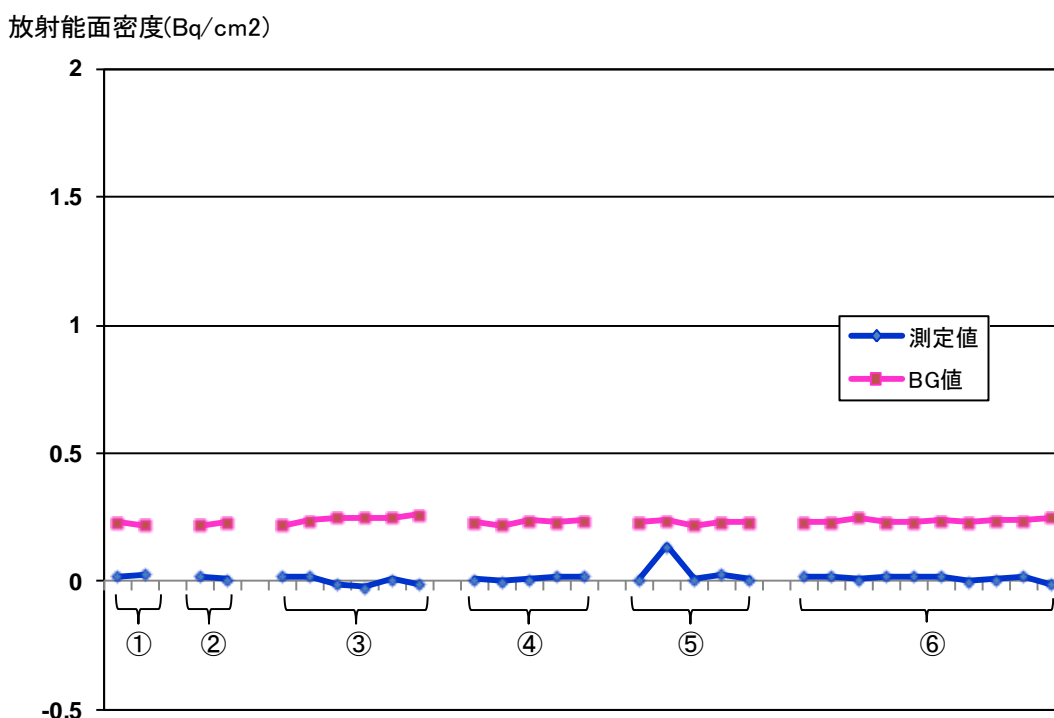
### (5) 絹織物及び同製品

放射能面密度の測定値（平均値）は、最小-0.01 Bq/cm<sup>2</sup>～最大 0.02 Bq/cm<sup>2</sup>であり、バックグラウンド値を超えて放射線量が検出されるサンプルはありませんでした。

<調査対象物毎の放射能面密度>



<生産地域毎の放射能面密度>



(注1) ①計画的避難区域、②緊急時避難準備区域、③福島県内（警戒区域、計画的避難区域及び緊急時避難準備区域を除く。）、④東京都、⑤西日本（大阪府、京都府）、⑥国外

(注2) 測定値のデータは、実際の測定値からバックグラウンド（BG値）を差し引いたもの。

(本発表資料のお問い合わせ先)

製造産業局繊維課長 富吉

担当者：梅北、三浦

電 話：03-3501-1511 (内線 3861~8)

03-3501-0969 (直通)